

2025年3月期

決算補足説明資料

2025年5月9日

未来を包む - Inclusion for Future -



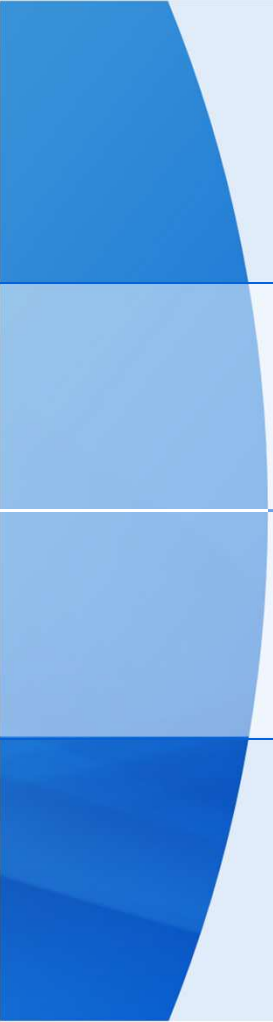
大石産業株式会社

東証スタンダード、福証: 3943

Index

目次

- 01** 会社概要
- 02** 2025年3月期 通期決算報告
- 03** 2026年3月期 業績予想
- 04** APPENDIX



01 会社概要

包装資材の総合メーカーとして、消費者の生活や物流に欠かせない高品質な製品を提供

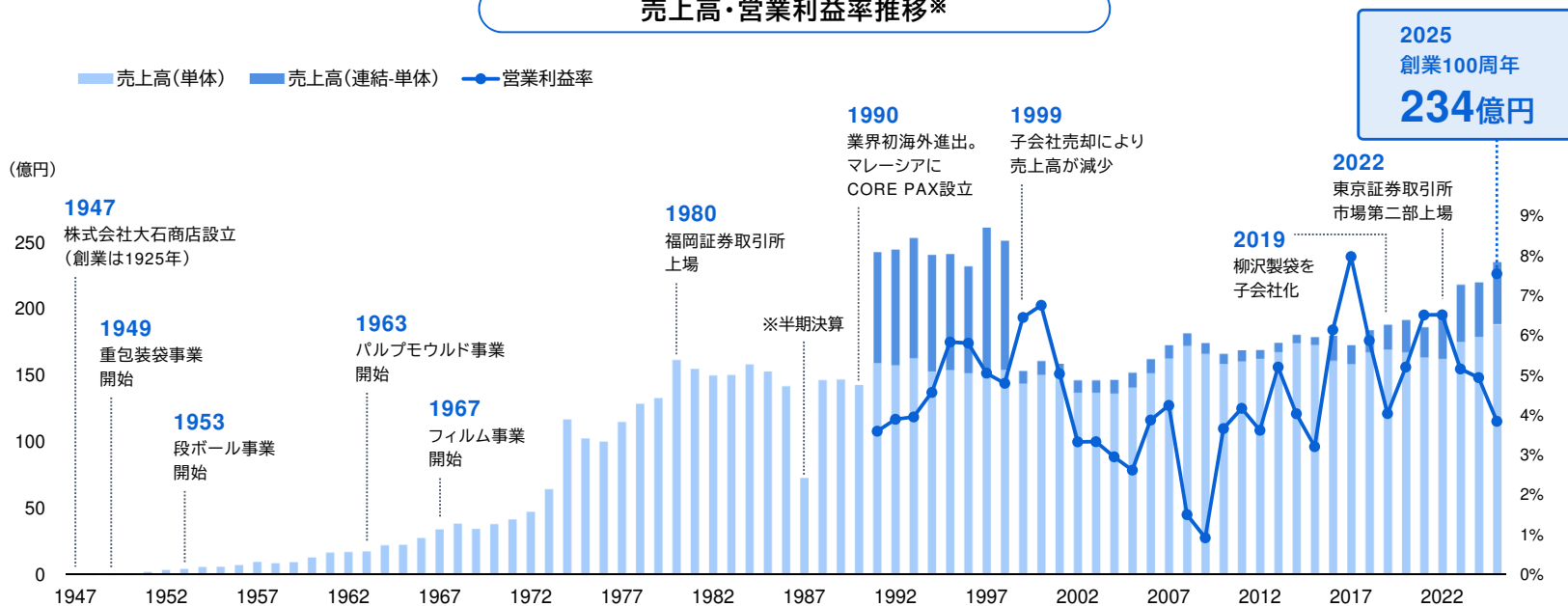
社名	大石産業株式会社
設立	1947年2月（創業：1925年4月）
本社所在地	福岡県北九州市八幡東区桃園2-7-1
資本金	466,400,000円
決算期	3月
従業員数（連結）	582名（連結）（2025年3月末時点）
株主数	6,985名（2025年3月末時点）
事業内容	産業用包装資材の製造販売（パルプモールド、段ボール、フィルム、重包装袋等）
連結子会社	・ CORE PAX(M) SDN.BHD.（重包装袋の製造販売） ・ ENCORE LAMI SDN. BHD.（ラミネート製品の製造販売） ・ 柳沢製袋株式会社（重包装袋の製造販売） ・ 株式会社アクシス （各種情報機器販売、映像・デザイン等の各種情報コンテンツの制作業等） ・ FUSIONS TRADING MALAYSIA SDN.BHD. （マレーシア国における日本産農産物等の輸入販売）



代表取締役社長 山口 博章

1947年の設立以来、主要事業で堅調に推移。25年3月期には売上高234億円を達成。原材料・エネルギー価格変動の影響で利益増減はあるものの、赤字なしで推移

売上高・営業利益率推移※



※ 1947年～1990年は単体売上高、1991年以降は連結売上高。47～48年は12月期決算、49～86年は9月期決算、1987年以降は3月期決算の売上高。

包装資材分野に注力

日本全国に営業・生産拠点を保有し、国内のお客様のニーズに迅速に応える体制を構築。また、マレーシアにも営業・生産拠点・その他事業を展開

国内



本社



パルプモールド鞍手工場

福岡県

- ・北九州市
- ・直方市
- ・鞍手郡



- 本社
- 営業拠点
- 生産拠点
- その他

マレーシア

- 営業拠点
- 生産拠点
- その他

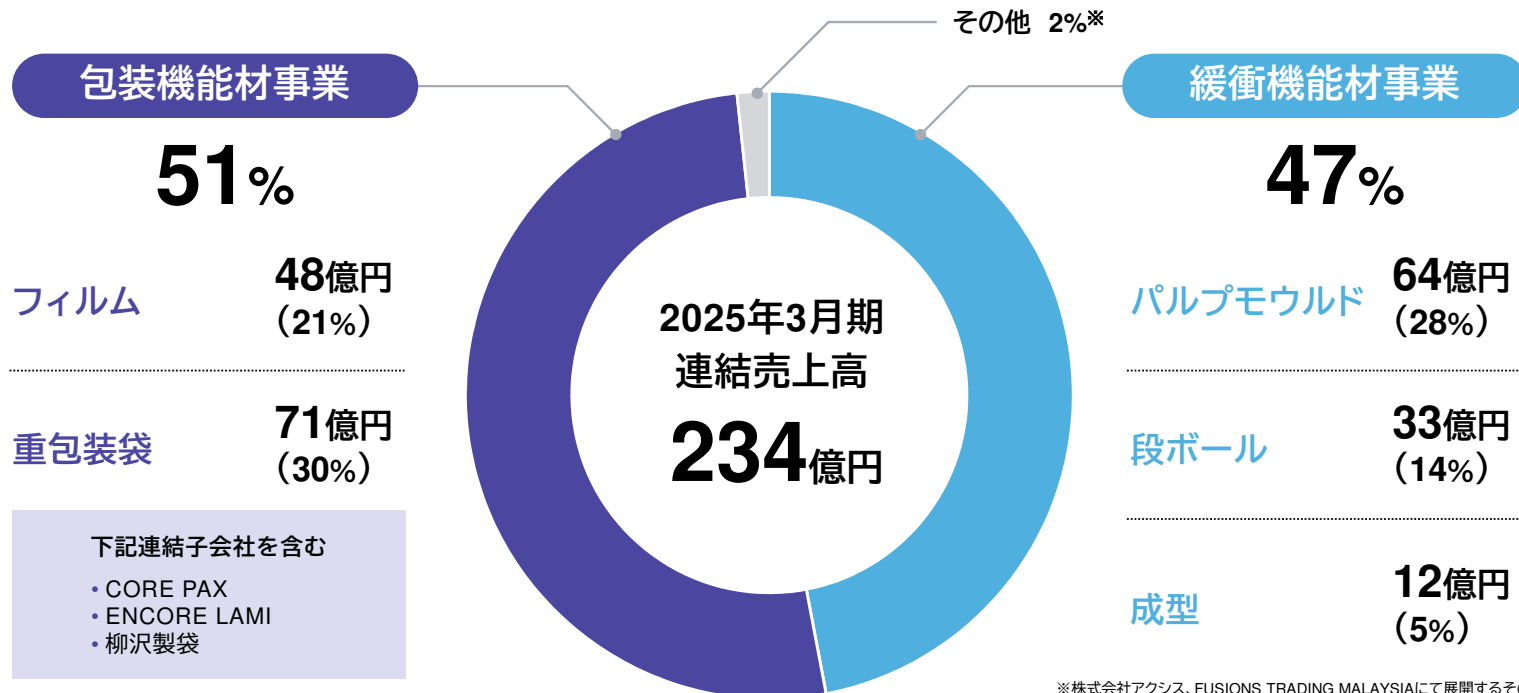
クアラルンプール

- ジョホールバル
- ・CORE PAX
- ・ENCORE LAMI



CORE PAX

パルプモールド、段ボール、成型を含む緩衝機能材、フィルム、重包装袋を含む包装機能材を基幹事業として展開



※株式会社アクシス、FUSIONS TRADING MALAYSIAにて展開するその他事業

消費者の生活に欠かせない各種製品から、物流・製造業を支える各種包装材を製造

緩衝機能材 事業

パルプモールド

鶏卵パック



ドリンクキャリア



トマトトレイ+ケース



工業品用トレイ



食品容器



鶏卵トレイ+ケース



段ボール

工業用ケース



農畜産用ケース



成型

ゆりかご



食品トレイ



包装機能材 事業

フィルム

衛生材料用フィルム



食品用フィルム



他
電子材料向け等

重包装袋

業務用小麦粉用・化学薬品用・合成樹脂用等





売上高成長率

20年3月期 ▶ 25年3月期

CAGR **+4.2%**

経常利益率

—— 25年3月期 ——

4.8%

海外売上高比率

—— 24年3月期 ——

14.1%

パルプモールド
国内シェア

—— 2024年度 ——

No.1
(当社推計)

拠点数

—— 25年3月期 ——

営業

国内 **13** 海外 **2**

※その他事業セグメント含む

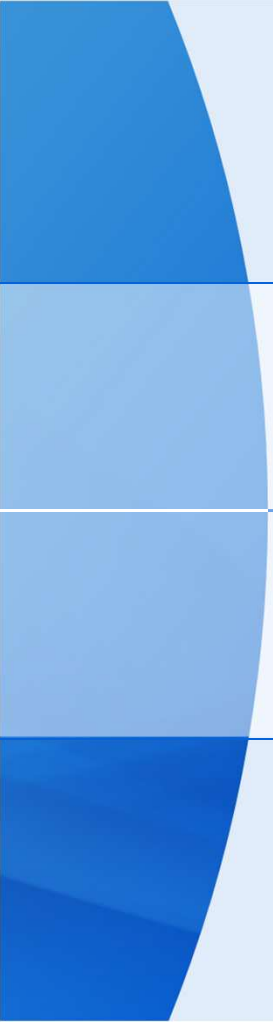
生産

国内 **6** 海外 **2**

食品トレー用ポリスチレンフィルム
国内シェア

—— 2024年度 ——

No.1
(当社推計)



02 2025年3月期 通期決算報告

前年対比

販売価格の見直し効果、重包装袋の販売回復、パルプモールド部門及びフィルム部門の増販により増収となったものの、人件費や減価償却費の増加により減益

売上高

234.8億円

前期比 +6.9%

営業利益

9.0億円

前期比 △16.7%

経常利益

11.3億円

前期比 △16.1%

当期純利益

9.4億円

前期比 △11.3%

外部環境

緩衝機能材

- ・夏季の猛暑などの天候不順による青果物の収穫量減少に伴い、包装資材の需要も低迷
- ・環境配慮意識の高まりを背景に、紙製パッケージへの転換需要が拡大

包装機能材

- ・重包装袋は国内需要減少、ASEAN市場は成長維持も中国経済の鈍化が影響
- ・フィルム分野の食品向けは節約志向の影響を受けつつも堅調に推移し、電子工業向けは成長を維持

予想対比

売上高は計画通りに推移したものの、利益は新製品上市の遅れ及び一部価格修正の遅れが生じ未達となった。
 第3四半期まで好調に推移していたものの、第4四半期以降、海外事業の減速等により低調に推移した

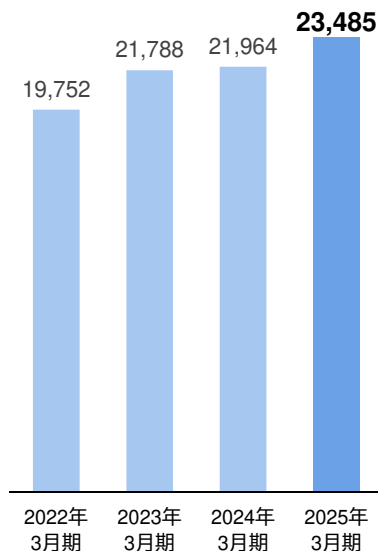
(百万円)

	2024年3月期 実績	2025年3月期		増減額 (増減率)	2025年3月期 予想	増減額 (増減率)
		実績	売上比			
売上高	21,964	23,485	-	+1,521 (+6.9%)	23,450	+35 (+0.2%)
営業利益	1,086	904	3.7%	△181 (△16.7%)	1,170	△265 (△22.7%)
経常利益	1,347	1,130	4.7%	△216 (△16.1%)	1,400	△269 (△19.2%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,065	944	3.3%	△120 (△11.3%)	1,025	△80 (△7.8%)

売上高は増加傾向にあるものの、昨今の事業運営コストの増加により減益

売上高

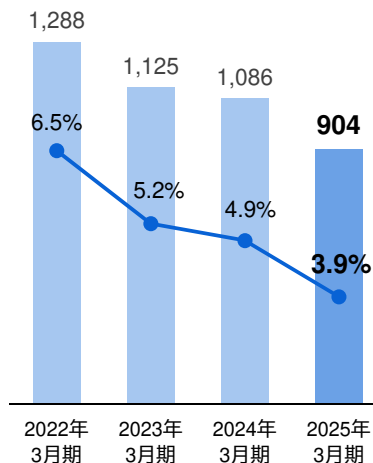
(百万円)



営業利益

(百万円)

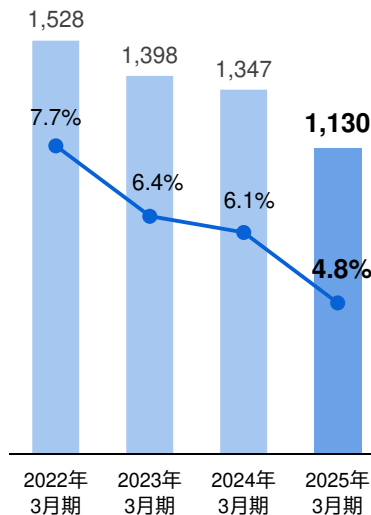
営業利益 営業利益率



経常利益

(百万円)

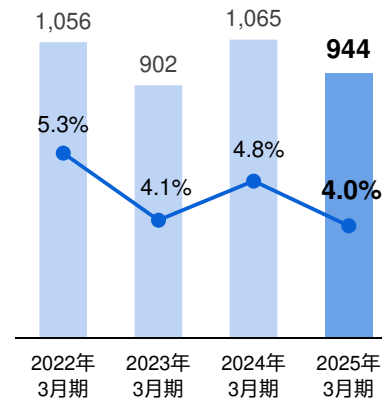
経常利益 経常利益率



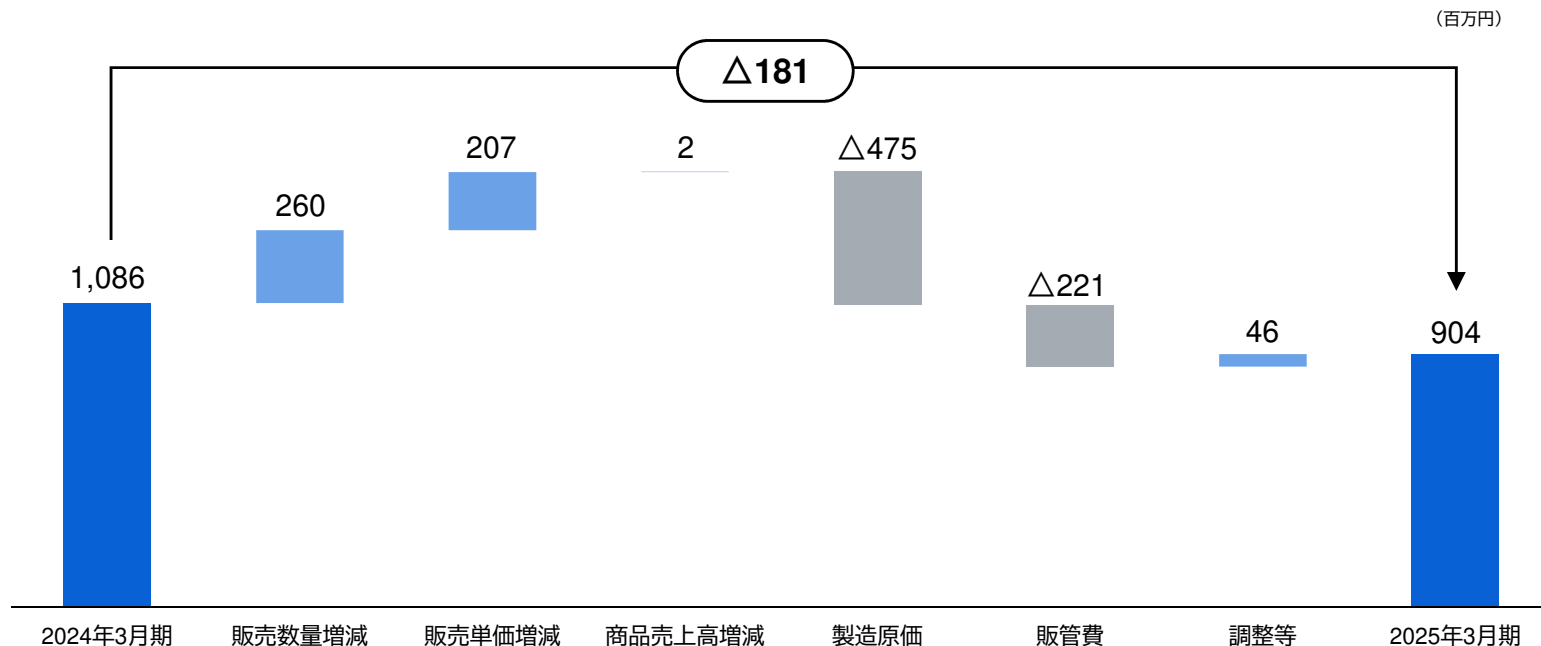
当期純利益

(百万円)

当期純利益 純利益率



海外重包装袋の販売回復、パルプモールド事業やフィルム事業における増販および各事業における販売価格の修正による効果はあったものの、積極的な設備投資による減価償却費の増加や人件費の増加等により減益

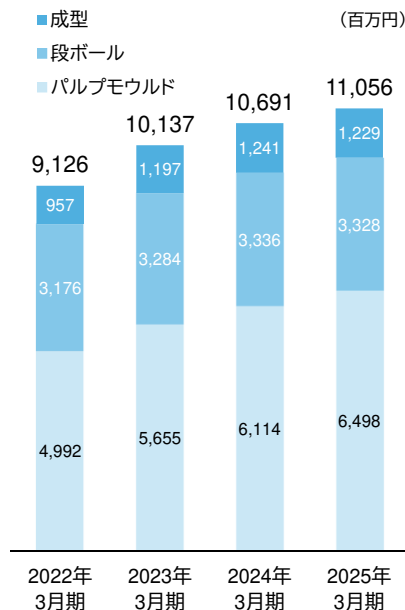


(百万円)

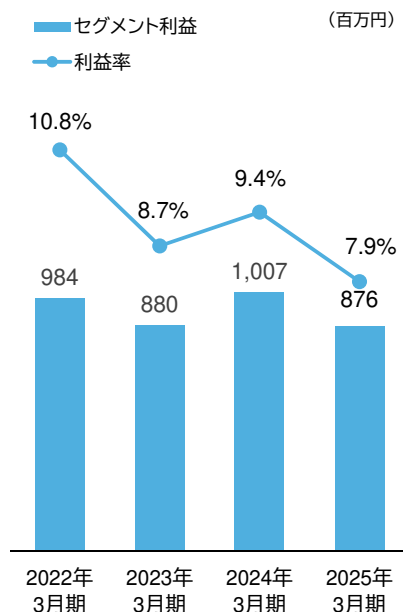
		2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	増減額 (増減率)
緩衝機能材事業	売上高	10,691	11,056	+365 (+3.4%)
	セグメント利益	1,007	876	△130 (△13.0%)
	セグメント利益率	9.4%	7.9%	△1.5pt
包装機能材事業	売上高	10,892	11,985	+1,092 (+10.0%)
	セグメント利益	859	930	+71 (+8.3%)
	セグメント利益率	7.9%	7.8%	△0.1pt

売上高は主にパルプモールド製品の増販効果により増収となったものの、利益は人件費や減価償却費の増加により減益

売上高



セグメント利益

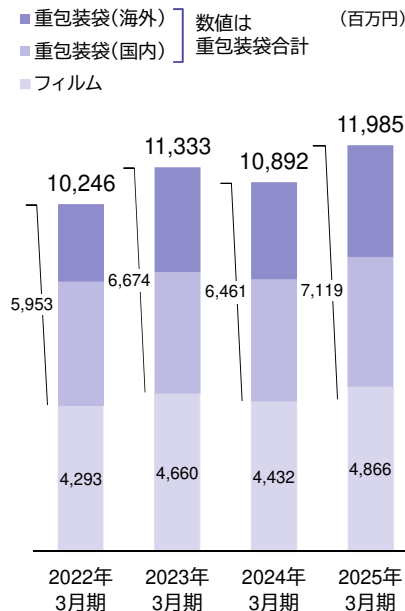


要因

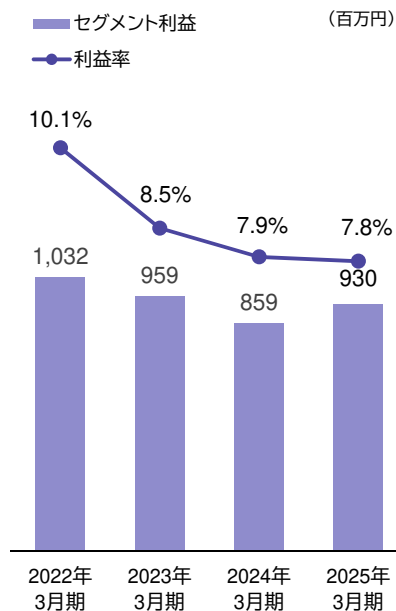
- パルプモールド部門は、青果物の収穫量減少の影響により販売減となったものの、昨年上市した事務機器用トレーの増販および販売価格の修正により増収
- 段ボール部門は、工業分野は増販となったものの、パルプモールド部門と同様に農業分野向けの販売が減少したことにより減収

売上高は全部門において増収、利益は主に海外部門の増収効果により増益

売上高



セグメント利益



要因

- フィルム部門は、食品容器用ポリスチレンフィルムの販売数量は微増となったものの、キャストフィルムの拡販および原材料価格の値上がりに伴う販売価格の修正により、増収
- 重包装袋部門は、国内において飼料向けや化学薬品向けが増販、海外において食品向けおよび化学薬品向けが増販となったことにより、増収

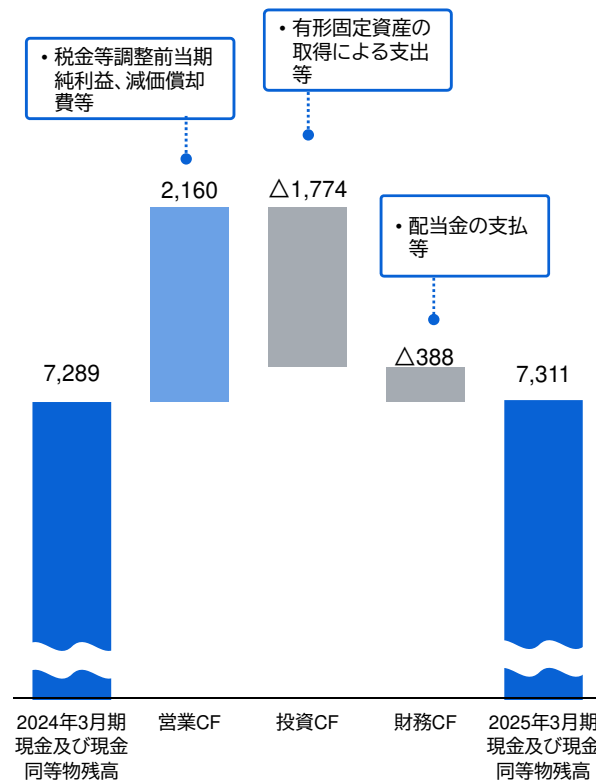
(百万円)

	2024年3月期末	2025年3月期末	増減額	主な増減要因
流動資産	15,406	15,506	+100	原材料及び貯蔵品、電子記録債権の増加等
固定資産	10,666	11,185	+519	機械装置及び運搬具、建物及び構築物の増加等
資産合計	26,072	26,692	+620	
流動負債	6,575	6,310	△265	設備関係電子記録債務、支払手形及び買掛金の減少等
固定負債	1,756	1,657	△98	
負債合計	8,332	7,968	△364	
純資産合計	17,740	18,724	+984	
負債純資産合計	26,072	26,692	+620	
自己資本比率	67.8%	69.9%	+2.1pt	

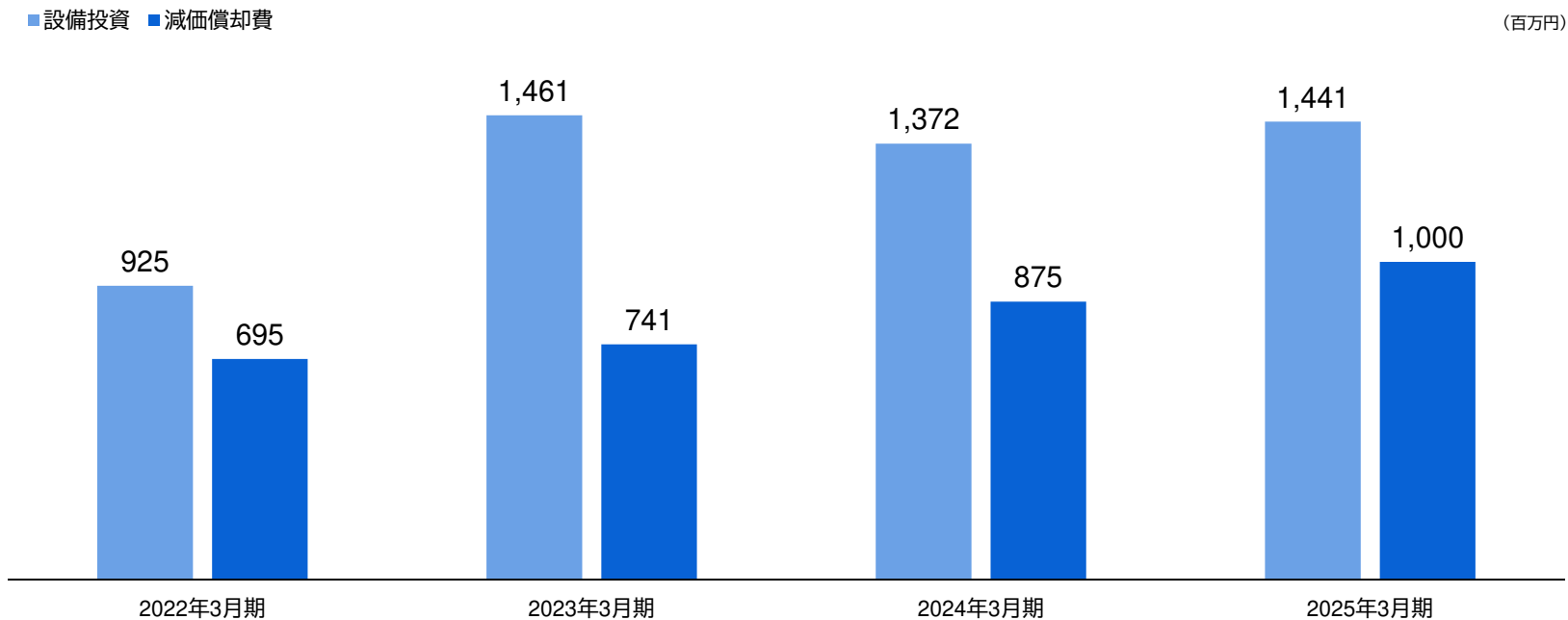
(百万円)

	2024年3月期	2025年3月期	増減額
営業CF	1,864	2,160	+296
投資CF	△1,355	△1,774	△419
FCF	509	386	△122
財務CF	△642	△388	+254
現金及び現金 同等物期末残高	7,289	7,311	+21

(百万円)



将来に備え、減価償却費を上回る積極的な設備投資を実施



2025年4月に創業100周年を迎え、記念事業を展開

- 100周年記念サイトの立ち上げ(24/5/1公開)
- 会社ホームページを全面リニューアル(25/4/1公開)
- 会社案内のリニューアル
- 広告設置(北九州空港、黒崎駅等)
- 会社紹介動画の作成(25/4/1公開)
- テレビCM制作(25/4/1公開)
- 社員持株会向け譲渡制限付株式を付与するインセンティブ制度を導入
- 従業員持株会制度の奨励金付与率の引き上げ
- 北九州市を走る西鉄バスのラッピング広告、夏頃開始予定



会社ホームページ トップ



北九州空港広告



100周年記念ロゴ

展示会への出展や大学との連携にも取り組む

東京パック2024への出展

「包んで、守って、まもなく100年」をコンセプトに
開発品を多数展示



農業WEEK(J-AGRI)への出展

主力製品ゆりかご中心に展示



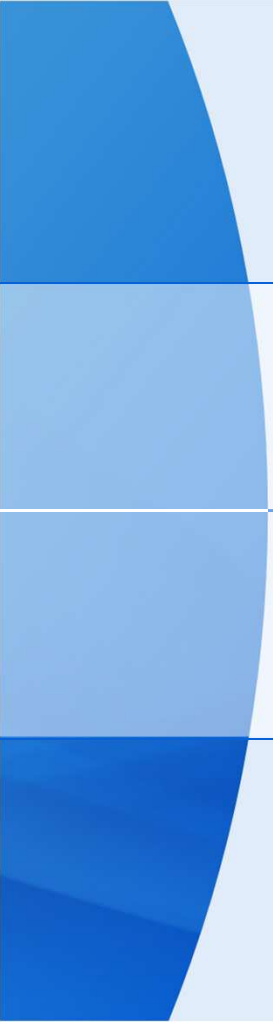
九州栄養福祉大学と包括連携協定を締結

北九州地区における学術研究の発展、地域産業の振興、教育・人材育成に取り組むための協定に参画

公益社団法人日本包装技術協会主催の日本パッケージングコンテストに10年連続で入賞。2024年は本コンテストの最高賞となる「ジャパンスター賞」※を獲得



※「ジャパンスター賞」「包装技術賞」「包装部門賞」の3つの賞で構成されており、「ジャパンスター賞」は本コンテストの最高賞である



03 2026年3月期 業績予想

売上高は、海外事業における販売減はあるものの、各事業における価格修正および成長事業であるパルプモウルド・フィルム事業を中心に新製品開発を進め、増収の見込
利益は、増収効果はあるものの、将来に備えた積極的な設備投資の実施による減価償却費の増加および人員増強や人財育成、処遇改善による人的資本投資の増加により前年並みの見込

(百万円)

	2025年3月期 実績	2026年3月期		増減額 (増減率)
		予想	売上比	
売上高	23,485	24,232	-	+746 (+3.2%)
営業利益	904	901	3.7%	△3 (△0.4%)
経常利益	1,130	1,134	4.7%	+3 (+0.3%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	944	792	3.3%	△153 (△16.2%)

1980年の上場以来、一度も減配・無配なし。今後も引き続き安定的な配当を実施

配当方針

生産性の向上等による利益体質強化を図りながら、将来の事業展開に備えた内部留保を確保しつつ、
DOE2.0%以上を目安に安定的な配当を実施

株主優待

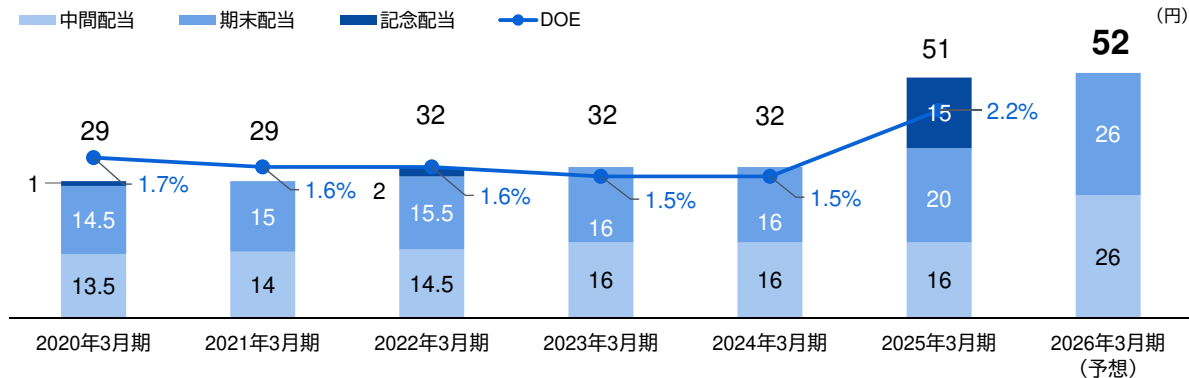
保有株式数に応じた株主優待制度・長期保有優遇制度として、QUOカードを進呈

2026年3月期予想

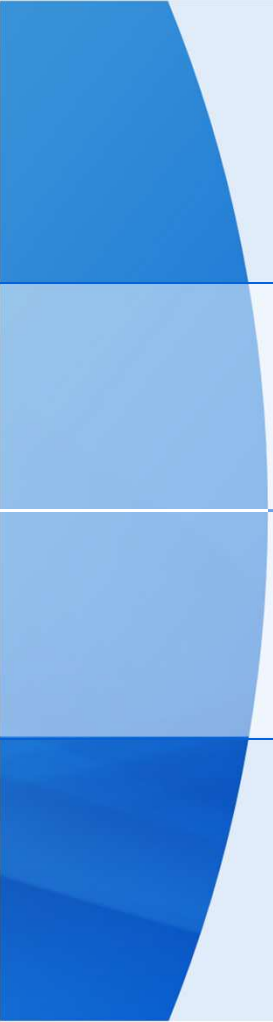
1株あたり配当金

52円

1株あたり配当金とDOE推移

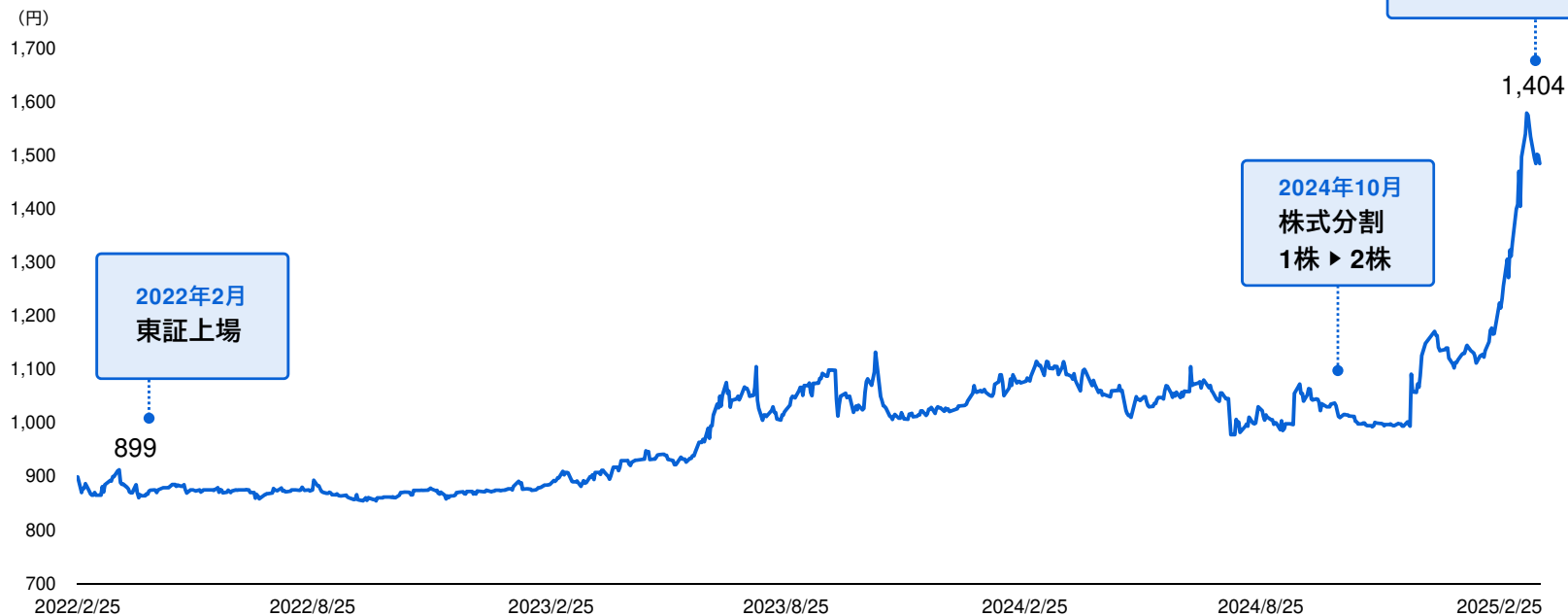


1株当たり配当金は2024年10月1日付で実施した株式分割を考慮した数値としています。



04 APPENDIX

株価(終値)推移



未来を包む - Inclusion for Future -



大石産業株式会社

本資料についてのお問合せ先

大石産業株式会社 経営企画室 IR担当

本資料の将来に関わる一切の記述内容は、現時点で入手可能な情報に基づく当社の判断によるものですが、現状または将来のリスクや不確実な要素が含まれています。

また、実際の業績は経済情勢の変化、法的規制の変化、自然災害等により変動する可能性があります。